エスティの国際交流コーナー NO.9

イスラエル独立記念日と戦没者記念日

皆さん、お久しぶりです。近頃は、八百津町が新緑に覆われ、夏のような感じがします。

私は、先日休暇でイスラエルへ帰って、久しぶりに家族と友達に会いました。今回はイスラエルで見たことについてお話したいと思います。

実は、4月末にイスラエルでは大切な祝日があり、そのお祝いの様子を見てきました。

4月28日に戦没者記念日が行われました。この日は建国以前から現在まで、イスラエルの自衛戦争で戦没した兵士を追悼します。その戦没者の数は22,570名に至るそうです。2000年以降、兵士などだけでなくテロ犠牲者の記念日にもなりました。その日一日娯楽施設が閉まります。テレビやラジオは通常のプログラムを停止し、戦没者に関する話やインタビューと悲しい歌を放送します。各市町村や学校では個別の式典がありますが、エルサレムの「嘆きの壁」のそばで行われている国家式典は生放送で伝えられます。又、記念日の前夜、全国でサイレンが鳴ります。そのサイレンが聞こえたら国民は仕事の手を休めたり、車などを止めて、その場で立ち止まり、一分間の黙とうで戦没者を追悼します。記念日の午前も二分間のサイレンが鳴り、その後式典が始まります。国民全員がそのように立ち止まっていることを見るのは珍しくて、感動的なシーンだと思います。

戦没者記念日は、悲しく厳粛な日なのですが、それが終わるとすぐその夜から独立記念日の祝典が始まります。同じ嘆きの壁のそばで、今度は独立祭が行われます。それも生放送で全国へ伝えられます。メインイベントとして、国民の中から選ばれた12人が12本のトーチに火を付けます。独立祭は毎年別のテーマで行われ、式典に参加する12人は小さい子供から高齢者まで、毎年新しく選ばれます。今年のテーマは「テル・アビブ市の100周年」で、代表はテル・アビブに在住でその都市のために働いた人達でした。点灯式の後、イスラエル軍の部隊のパレードなどがあり、各市町村でも様々なパフォーマンスがあり、最後に全国で花火大会が行われます。次の日も祝典が続きます。家や自動車もイスラエルの国旗で飾られます。大勢の人々が公園や緑地へ出て、バーベキューをします。そして、軍の基地が公開され、戦車や船、飛行機を見ることができます。

私と家族は今年の独立記念日を首都エルサレムで過ごしました。エルサレムの街では「ライブ・ミュージアム」というイベントがありました。街の幾つかの場所では、イスラエルの建国の歴史を語る歌を歌ったり、劇を上演したり歴史装束を身にまとった人がいました。

このような重要な時期に帰国できて嬉しかったです。しかし、これから始まる八百津町の夏もとても楽しみにしています。

車を止めて黙とうするイスラエル国民